

共に育ち、共に学ぶ！居住地校交流



本校では、希望する児童生徒に対し、居住地の小学校、中学校に出向いて同年代の子どもたちと活動を共にする居住地校交流を行っています。

交流を深めることで、自分が住んでいる地域で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくことを目的としています。そして地域の子どもたちにとっても、共に生きる仲間を知り一緒に学ぶ機会を得ることは、とても大切なことだと感じています。

今回は、小学部・中学部の居住地校交流の取組について、各1ケースずつ紹介します。

初めての交流!! 事前の準備を丁寧に ～Aさん(小学部3年生)のケース～

今年度、初めて居住地校交流に取り組みました。

交流の前に、相手校の先生との打合せです。動画なども活用して、Aさんの得意なことや好きなこと、また初めての場所などが少し苦手な不安になることなどを話しました。

打合せを受けて、次のことを事前に行うことにしました。

- ① 相手校の子どもたちに障害理解授業を行う。
- ② Aさんが事前に校舎（誰もいない放課後）を見学する。



これにより、当日はAさんが安心して交流に臨むことができました。また、相手校の先生がAさんの好きなことを考慮して図工の授業を考えてくれたので、Aさんも興味をもって授業に参加しながら、友達と交流することができました。



← 障害理解授業の様子

天王みどり学園の紹介、みどり学園の友達との関わり方、Aさんの紹介などを、体験を交えながら伝えました。

実際の交流の様子 →

回転するおもちゃが好きなAさん。図工で「紙コプター」と「空とぶ魚」を作り、みんなで体育館で飛ばしました。



小2から中3まで8年間の交流!! ~Bさん(中学部3年生)のケース~

Bさんは、小学部2年生から5年間+中学部3年間の計8年間にわたり、居住地校交流に取り組みました。



小3 お楽しみ会



小6 体育
ドッジボール



中2 調理実習
だまご鍋

お母さんの 思い

相手校の御協力ももちろんですが、兄弟も含めた御家族の理解も大きかったため、継続して交流を深められたと思います。そこで、より広く居住地校交流について理解をしていただくために、そしてこれから居住地校交流を始める方たちのためにも、Bさんのお母さんから声を寄せていただきました。

Q 交流したいと思った理由は何ですか。

A 地元の保育園(2年間)ではみんな優しく接してくれて、楽しく過ごすことができました。小学校が別々になっても交流を通じてみんなと一緒に活動できるのでよいと思いました。Bのことをずっと覚えていてほしいとも思いました。



Q 印象に残っている交流は何ですか。

A 小学部6年時、体育でのドッジボールです。交流先のお友達がBを楽しませようと、わざとボールに当たってくれたり優しくフォローしてくれたりする姿を見て、とてもうれしく感動しました。



Q 交流してよかったと思うことは何ですか。

A 交流先のお友達と近所で会ったときなど、Bに声をかけてもらったり、お母さん方からも「この前、Bちゃん学校に来たってOOが言ってたよ!」など言われたりすると、とてもうれしいです。

Q これから交流を始める家庭の方へのメッセージなどをお願いします。

A 初めは不安や心配もありましたが、交流先の学校の先生方も生徒のみなさんもとてもよくしてくれました。いつもと違う環境での交流は、子どもにとって緊張や不安もあると思いますが、先生から聞いた交流の様子やうれしそうな子どもの顔を見ると、交流を始めてよかったと思います。



以下は、交流先の子どもたちや先生方から交流後に寄せられた声です。

Cくんは想像力豊かで何を
作るのか、見ているこっちも
わくわくしました。礼儀正し
いのが印象に残りました。

友達の声

前より笑顔でいることが多くなっていま
した。目線を合わせるだけで笑顔になっ
てくれたのでうれしい気持ちになりました。

久しぶりにDにあって楽し
かった。身長がでかくなっ
てびっくりしたよ。また会
ったときはもっと話そうね!!

先生の声

毎年行っているおかげで、生徒も
慣れて積極的に交流していま
した。生徒のよさをあらためて発見
できたよい機会となりました。

普段は見られない、本校
の生徒の優しい一面や
気配りする様子などを
見ることができました。

今後とも、地域の方々の御理解と御協力を得ながら、居住地校交流を進めていきますので、どうぞよろしく
お願いいたします!

令和2年11月30日 第2回みどりアシスト研修会



「性の問題行動をもつ子どものためのワークブック

～発達障害・知的障害のある児童・青年の理解と支援～」を学ぶ

教育専門監 新目 敏子



第1回目に引き続き、「コグトレ」をテーマにした校内研修会を実施し、指導の場面で気になることや、どのように指導すればよいかなど、オープンに話し合いにくい性の問題を取り上げ、このような機会を通して、性の問題行動の捉え方や指導方法を考えました。

性の問題行動の背景には、通常の人間関係で要求されるコミュニケーションの不足や心理的・社会的ブレーキをかける力の不足があり、「コグトレ」による注意の抑制力を向上させるトレーニングや心理・社会的アプローチが効果的であることを学びました。後半は、グループでワークショップを行い、普段の指導で感じている悩みや疑問などを話し合いました。

小学部では、高学年が男女別に学習する機会を、中学部では気になる生徒への対応について引き続き話し合う機会を設けるなど、研修後の積極的な取組に結び付いています。

高等部では、学部集会での指導と長期休み前の保健指導を連動して行うことが、様々なトラブルの未然防止に効果的であることを参加者で確認しました。12月18日には冬休み前の保健指導を実施しました。昨年度と内容を大きく変えず、参考図書※のワークシート等を活用しながら、初めて学習に参加する1年生、繰り返し学習することで知識として身に付く2、3年生と、一人一人のねらいに合わせ、指導の定着を目指して取り組んでいます。

著者の宮口幸治先生が、著書の中で述べている、「性の指導は早期から」、「性被害にも加害にもさせない」ことを目指した取組を今後も実践していきます。



※参考図書（高等部）

<紹介>

男鹿市立脇本第一小学校 校報 「わきいち」

2020.12.1 版

暮らしの中で相手を思い合いながら！ 障がい理解教室で学ぶ

本校では、これまで障がいのある子どもとそうでない子どもとが交流・共同学習を通して相互理解を図る取組の他に、特別支援学校から講師をお招きし、障がいのある人との関わり方などを学ぶ機会を設けてきました。今年度も学年のテーマに応じて、体験活動を取り入れた障がい理解教室を開きました。今後も子どもたちが人の多様性を認め、共に尊重し合いながら協働して生活していくことができるよう、障がい理解教育と心のバリアフリーのための取組を進めていきます。

- ◆学年テーマ(講師)◆1年「私たちのまわりにはいろいろな人がいるよ～大きい目をもとう～」(天王みどり学園)◆2年「クイズ だれのための工夫かな?～見て、聞いて、体験して～」(天王みどり学園)◆3年「耳の不自由な人を理解しよう」(聴覚支援学校)◆4年「目の不自由な人を理解しよう」(視覚支援学校)◆5年「手足や体の不自由な人を理解しよう」(きり支援学校)◆6年「困り感のある人を理解しよう～『きこう』って何?～」(天王みどり学園)



5年生…車いすの補助を体験中です！
★「床とマットの間のちょっとした段差を乗り越えるのにもコツが必要だよ。」

聴覚支援学校、視覚支援学校、きり支援学校、本校の4校で協力、実施しています。

脇本第一小学校の校報に障がい理解教室の取組を掲載していただきました。学年ごとに、1年に1回、6年間で計6回行うという、本校の障がい理解メニューに基づいて実施している教室です。他校でも同様に実施しています。詳細は本校のHPを御覧ください。



相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立支援学校天王みどり学園

教頭：福士 智子 地域支援部 遠藤 美和子

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612